

第一回小田急小田原線沿線まちづくり勉強会 議事概要

1. 日 時 2012年12月26日(水) 14:00~16:00

2. 場 所 国土交通省 3号館 特別会議室

3. 各地方公共団体および鉄道事業者からの主な発言は以下のとおり。

- 駅周辺に重点地区を位置付けて駅の魅力向上を図り、公共交通の新体系を目指している。市内にサブ拠点をつくり、公共交通を分散していきたい。本市はURの団地が多く、高齢化に伴う団地再生に向けた取り組みも1つのプロジェクトとしている。
- 周辺他市に大きなターミナル駅があるが、本市の駅も小田急線の分岐点として需要がある。市民の足としてはバス網整備とセットで考えている。行政間の連携としては他市との図書館の相互利用、住民票の相互交付などのサービスを行っている。
- 高齢者は駅周辺で生活をして若年層は郊外で生活するのが理想ではないか。現状としては市内の駐輪対策が課題となっている。
- 市内には鉄道駅が9駅あり、都市計画マスタープランでは駅を中心とした東西一体型のまちづくりを目指している。公共施設等の集積を予定しており、駅中心のまちづくりを検討する際には課題がある。
- 市が買収した大型商業施設を活用した、歩いて暮らせるまちの事業展開を図りつつ、現在の駅の乗降客数を維持していきたい。
- 観光を推進していくために、駅広、自由通路等の駅整備を図っていきたい。
- 広域的なまちづくりの考え方は理解できる。庁内の関係部署とも連携して検討をしていきたい。広場整備の予定がある駅については、周辺整備とあわせて行い、利用客増加を見込みたい。
- 人口減少の要因分析の結果により、バス会社との連携に着目し、通学定期の助成、バスの増便(平成26年まで)、高齢者・身障者向けのパス(本人負担1/3、行政負担1/3など)などを実施している。また来年度からも新サービスを開始予定である。今後は駅周辺の整備等が課題である。

- 駅周辺の区画整理事業及び橋の建設が平成 26 年度内に竣工予定。まちの南側の公共交通基盤整備がされていく中で、北部の田園地帯はバス交通を含めた公共交通のニーズが高まっている。近隣市町を含めた広域的な公共交通の整備を高め、駅の利便性も高めていく必要がある。自転車利用も多いため、自転車によるまちづくりや庁舎移転に伴う開発などについても検討していきたい。
- 市の中心駅については現在地下街の再生に取り組んでいる。地域における歴史的風致の維持及び向上に関する法律に基づいた魅力出しをしつつ、交流人口を増やししながら定住人口の増加を図りたい。沿線全体で考えるなら今回調査対象として外れている駅についても検討事項に入れるべきではないか。
- 公共交通を軸としたまちづくりは考え方が一致している。特に人口減少に対応したまちづくりについて勉強していきたい。
- 都市計画マスタープランでもコンパクトシティの形成を目指している。また、都市の低炭素化の促進に関する法律による集約型都市構造に資するツールが示された中で、その具体策をどのように策定計画の中に取り込むかを検討している。駅を中心としたまちづくりには共感できる。しかし鉄道に接続する末端交通（バス、自転車等）をいかにシームレスで接続させるかも鉄道需要の増加につながるのではないか。今回の駅勢圏 2 kmについても末端交通を活用し、歩いて暮らせる駅勢圏を拡大することが課題ではないか。
- 取組みは地域によってかなり差があり、それぞれの地域での課題や独自の課題を抱え、いろいろ取り組んでいることが理解できた。ただ、その時期だけお客さんが増えるが、全体の流れとしてはやっぱり衰退していくという傾向がある。人が集まる、人が来る場所も一緒に併せて取り組むことが大事である。今は中心市街地に住む人が減っている。それを逆に中心市街地に人に住んでもらう、あるいはバスだとか自転車でどんどん中心市街地に来てもらえる環境をつくるのが大事である。そういう意味での今回の公共交通を軸にした、歩いて暮らせる集約型のまちづくりというのは、単に中心市街地の活性化だけではなく、バス・自転車を含めた駅へのアクセスも大事であり、バスを再編して太い軸にしてそこに非常に便利な公共交通の軸をつくって、まちづくりを集約していくことで重要である。そのためには、知恵と時間と力が要る。それぞれの地域での努力の成果や悩みなどを持ち寄って、みんなでそれを共有して今後の展開につなげていくことが大事である。
- この地域は、全国的に見ると非常にまだまだ恵まれたところである。これまでは、それぞれ駅の周りで都市開発をすると、そこが周りの中心になってきている。ただし、これから次の 30 年間を見ると、ゼロサムの中で動いているような状況であり、開発によりどこかではその分人口が減少したり売り上げが落ちたりすることになる。一方、沿線に 160 万人の

方がいることは、非常に魅力ある圏域である。既存の駅の周りではかなり密集していて、そこでまた大きな事業をすることは難しいが、どこのまちでも公共公益施設がちょうど40年、50年たって建て替えの時期に来ている、あるいは公益施設が駅の中心部の近くにあった場合には、そういうものを活用して新たな機能を導入していくことが考えられる。その際、それぞれのまちの中でどういう機能を立地するかももちろん大事であるが、沿線でどんなものがニーズとしてあるのかを見極め、公益施設の建て替えと併せて機能を導入してまちをつくっていく、沿線の魅力を高めていく取り組みも重要である。また、高齢者が快適に生活できる環境をどうつくっていくか、ここ数十年で大きなキーワードとして捉え、まちづくりを進めていくということも必要。観光資源に恵まれており、非常にいい条件の下なので、この場でいろいろ意見交換を行い、その地域の何か新しいアイデアが1つでも出てくれば幸いである。

以上